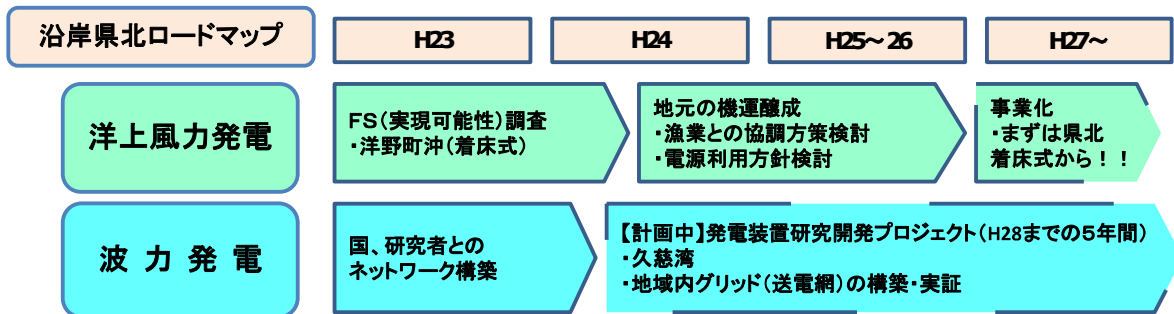
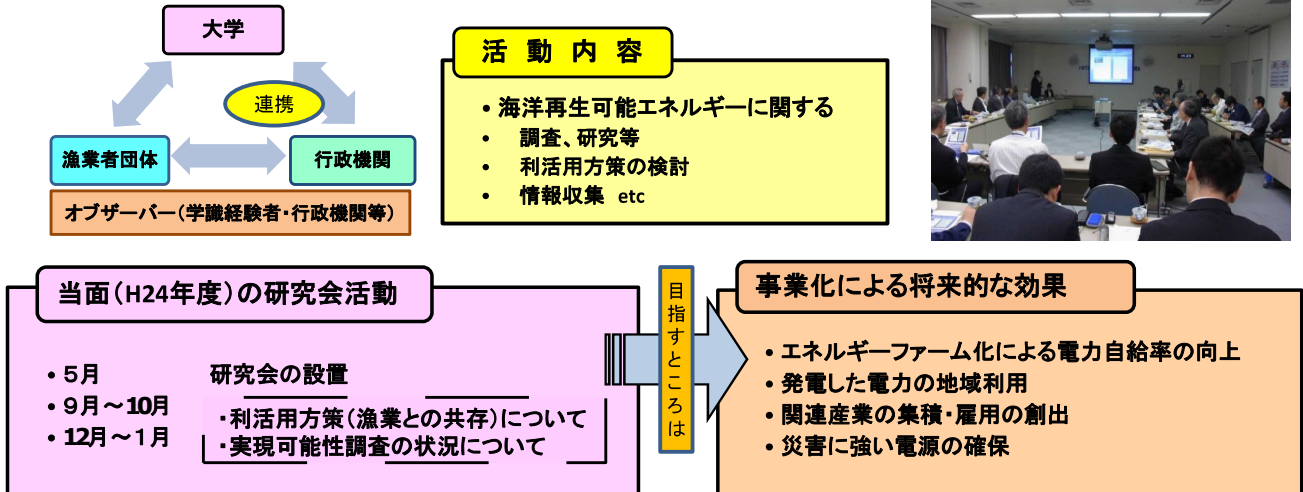


いわて沿岸北部海洋再生可能エネルギー研究会 の設置



21

洋上風力発電と漁業振興

洋上風車設置による漁業振興の可能性

- 漁礁効果、定置網の柵柱利用等
- 発電した電気の優先利用等
- 調査や保守点検時の現場までの人員等搬送(傭船)
- 簡易な保守等の受託等

漁業者からの声

- エネルギー問題は地域としても前向きに考える
- 一方、特に定置網漁業(サケ等回遊魚)への影響の有無について不安

(3) 三陸復興・海洋エネルギー導入調査事業

【海洋再生可能エネルギー導入・利活用に向けた課題】

- ▽三陸の風力や波力などの海洋エネルギー・ポテンシャルを明らかにすること
- ▽漁業調整や法規制等の課題を整理し、導入可能エリアを明らかにすること

【H24 三陸復興・海洋エネルギー導入調査事業】

地域における海洋エネルギー利活用や研究拠点の形成に向けた調査を実施

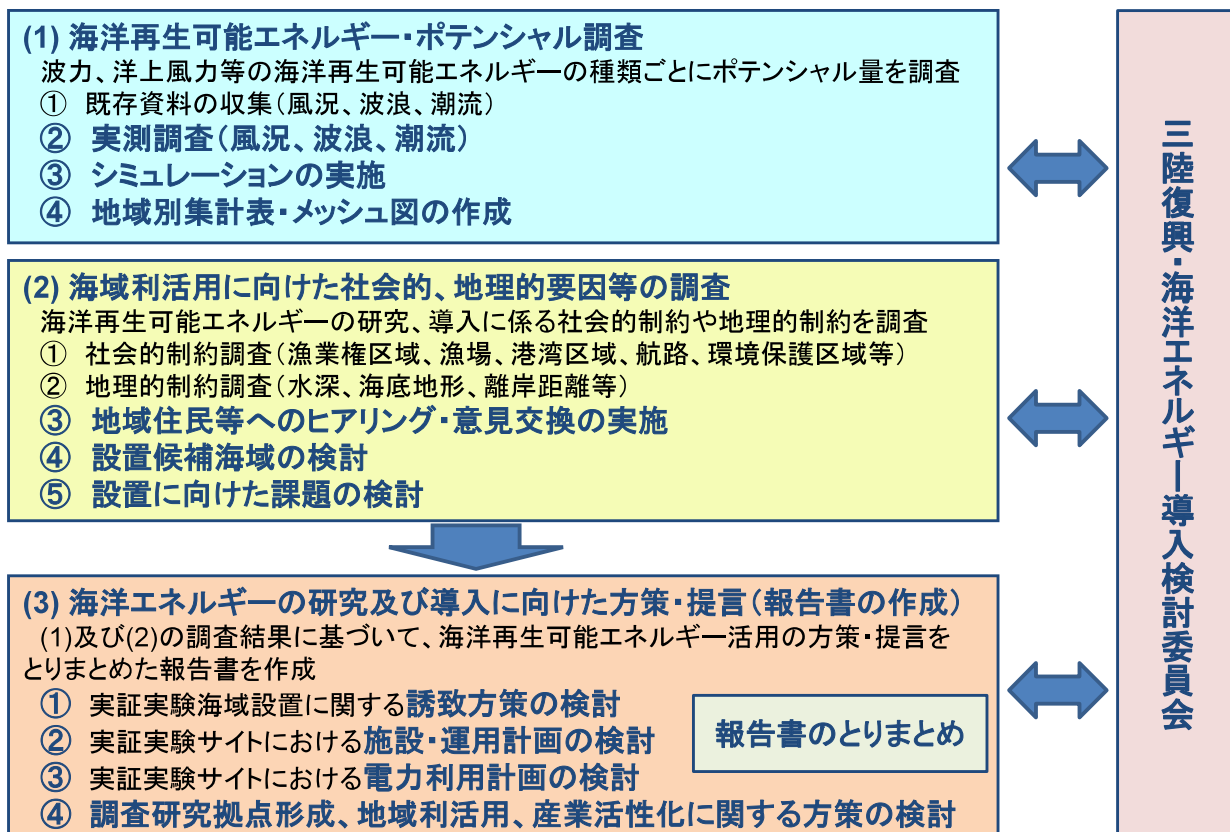
- 洋上風力や波力等のエネルギー賦存量を調査
(実測によるポテンシャル量の把握)
- 海域利用状況調査
(法規制の整理、水産関係者へのヒアリング等)
- 地域への導入方策の検討



三陸発・海洋再生可能エネルギーの研究開発・実証モデルへ

23

全体計画 (体系図)



24

三陸復興・海洋エネルギーシンポジウム



【主催】岩手県
 【共催】釜石市
 東京大学(OETR(海洋エネルギー東北再生)連携研究グループ)

＜開催の趣旨＞

三陸沿岸における海洋再生可能エネルギーの研究・導入や利活用と漁業との協調をはじめ、関連産業の育成や地域の活性化方策などについての理解を深めるとともに、海洋エネルギー実証実験海域の誘致などに向け、皆様と一緒に考えます。

日時:平成24年11月3日(土)
 10:00~14:30

場所:釜石ベイシティホテル
 (岩手県釜石市大町1-8-1)

参加者数:約110名



【後援】一般社団法人海洋産業研究会、社団法人日本プロジェクト産業協議会、岩手大学、岩手県立大学、社団法人岩手県経済同友会、岩手県商工会議所連合会、岩手県商工会連合会、岩手県中小企業団体中央会、社団法人岩手県工業クラブ、岩手県中小企業家同友会、釜石商工会議所、JST復興促進センター盛岡事務所、NPO法人@リアスNPOサポートセンター、いわて未来づくり機構、INS岩手ネットワークシステム

25

～プログラム～

9:30 開場
 10:00 開会
 主催者あいさつ 上野 善晴 岩手県副知事
 開催市あいさつ 若崎 正光 釜石市副市長

◇基調講演

10:10 「三陸復興・海洋エネルギー研究拠点の形成に向けて」
 佐々木 淳 氏(岩手県商工労働観光部科学・ものづくり振興課総括課長)
 10:30 「海洋再生エネルギー利用促進に関する今後の取組方針」
 阿部 聡 氏(内閣官房総合海洋政策本部事務局内閣参事官)
 10:50 「三陸沿岸の海洋エネルギーポテンシャル」
 早稲田 卓爾 氏(東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授)
 11:10 「海洋エネルギー利用と漁業協調について」
 中原 裕幸 氏(一般社団法人海洋産業研究会常務理事)
 11:30 「海洋エネルギー、欧州の挑戦」【逐次通訳付き】
 Richard Morris 氏(Commercial Director, The European Marine Energy Center)
 12:00 会場からの意見・質疑
 12:20~13:10 <休憩>

◇パネル討論

13:10 「海洋エネルギーを活用したまちのみらい」
 ～パネリスト～
 鹿野 順一 氏(NPO法人@リアスNPOサポートセンター代表理事)
 木村 琳藏 氏(釜石市議会議員、唐丹町漁業協同組合理事)
 小鯖 利弘 氏(釜石市議会議員、株式会社小鯖船舶工業代表取締役専務)
 中原 裕幸 氏(一般社団法人海洋産業研究会常務理事)
 若崎 正光 氏(釜石市副市長) (五十音順)
 ～コーディネーター～
 木下 健 氏(東京大学生産技術研究所教授)
 14:10 会場からの意見
 14:30 閉会



26

(4)東北復興次世代エネルギー研究開発プロジェクト【文部科学省、H24～28】

概要

東日本大震災の被災地の復興と我が国のエネルギー問題の克服に貢献するため、①福島県への革新的エネルギー技術研究開発拠点の形成、②被災地の大学等研究機関の強みを活かしたクリーンエネルギー技術の研究開発を推進する。

①革新的エネルギー研究開発拠点の形成

平成24年度予算：1,185百万円

○復興基本方針に基づき、福島県において再生可能エネルギー等に関する開かれた世界最先端の研究拠点の形成を実現するため、経済産業省と連携し、エネルギー分野のトップレベルの研究者の参画を得て、超高効率太陽電池等に関する基礎から実用化まで一貫した研究開発を推進する。

②東北復興のためのクリーンエネルギー研究開発の推進

平成24年度予算：814百万円

○復興基本方針に基づき、①被災地へのスマートエネルギーシステムの導入や環境先進地域としての復興、②再生可能エネルギーに関する革新的研究開発を実現し、東北地方の復興と我が国のエネルギー問題を克服するため、先進的なエネルギー技術の研究開発を推進する。

○東北の風土・地域性等を考慮し、将来的に事業化・実用化され、新たな環境先進地域として発展することに貢献する再生可能エネルギー技術の研究開発を実施

○東北地方の大学を中心に内外の研究機関等の協力を得て被災地自治体からのニーズを踏まえて実施し、被災地の復興につながる研究課題を推進。

【研究課題】＜中核機関：東北大学＞

岩手では、波力発電システム研究開発が実施される

◆三陸沿岸において活用が期待される波力など海洋再生可能エネルギー

＜実施主体：東京大学、岩手県久慈市、宮城県塩竈市＞

◆微細藻類のエネルギー利用

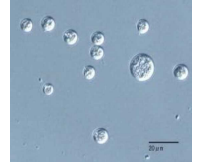
＜実施主体：筑波大学、東北大学、宮城県仙台市＞

◆再生可能エネルギーを中心とし、人・車等のモビリティ(移動体)の視点を加えた都市の総合的なエネルギー管理

＜実施主体：東北大学、東京大学、宮城県石巻市・大崎市 等＞



海洋再生エネルギーの利用



油を生産する微細藻類